

# 待望の展覧会開催、 現代アートの巨匠、

本展は、ドイツが生んだ現代で最も重要な画家というべきゲルハルト・リヒターの、日本では16年ぶり、東京では初めての美術館での個展です。リヒターは油彩画、写真、デジタルプリント、ガラス、鏡など多岐にわたる素材を用い、具象表現や抽象表現を行き来しながら、人がものを見て認識する原理自体を表すことに、一貫して取り組み続けてきました。その原理とは、単に視覚の問題ではなく、芸術の歴史、現代の視覚文化、20世紀ドイツの歴史、画家自身やその家族の記憶、そして鑑賞者の見ることへの欲望などが複雑に織りなすものです。画家が90歳を迎えた2022年、画家が手元に置いてきた初期作から最新のドローイングまでを含む、ゲルハルト・リヒター財団の所蔵作品を中心とする約110点によって、一貫しつつも多岐にわたる60年の画業を紐解きます。

## A long-awaited solo exhibition of the master of contemporary art

This exhibition features German artist Gerhard Richter, one of the greatest artists of our age. It is the first Richter show at a museum in Japan in 16 years and the very first one in Tokyo. Richter has consistently tried presenting the principle of how we see and perceive objects, moving back and forth between representation and abstraction using a variety of materials such as oil paintings, photographs, digital prints, glass, and mirrors. The principle concerns not only optical perception, but also perceptions formed by a complex web of aspects, including the history of art, contemporary visual culture, the history of 20th century Germany, the memories of the artist himself and his family, and audiences' desire to see things. In 2022, when the artist has turned 90 years old, the exhibition will trace his consistent but wide-ranging practices over the last 60 years, showcasing about 110 works, mostly from the collection of Gerhard Richter Foundation. The exhibits include a variety of items ranging from early works to the newest drawings.

(左) モーターボート(第1ヴァージョン) (79a)

油彩、キャンバス 1965年 169.5×169.5cm

写真を忠実に描くことで、絵画を制作する上での約束事や主観性を回避し、代わりに写真の客観性やありふれたモチーフを獲得する「フォト・ペインティング」と呼ばれる絵画のシリーズのひとつです。刷毛で表面を擦ることで生じた「ぼけ」は、絵画と写真とのあいだで、イメージのもっともらしさや客観性とは何かと考えさせます。

(中) アブストラクト・ペインティング(952-2)

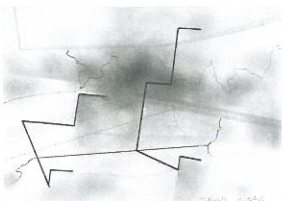
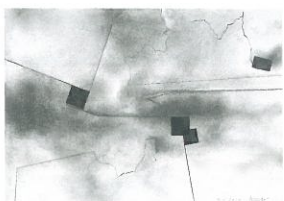
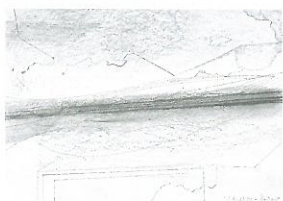
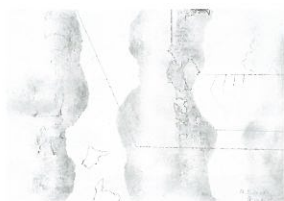
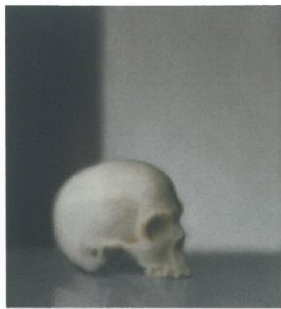
油彩、キャンバス 2017年 200×200cm

「アブストラクト・ペインティング」は、1976年以降、40年以上描き続けられているシリーズです。80年代中頃にリヒターは大ぶりのスキージ(へら)で絵具を塗り、そして削るという技法を確立しました。近年では小さなキッチンナイフも用いることで、これまで以上に細やかな調子の変化を画面に見てとることができます。

(右) 4900の色彩(901)

エナメル、アルディボンド 2007年 680×680cm

1966年に初めて制作された「カラー・チャート」シリーズに連なる作品です。この作品は25色で構成された約50cm四方の正方形のプレート、全196枚からなり、空間に合わせて異なる展示方法がとられます。その並びによってなんらかの像や意味が生じることはありませんが、鮮烈な色彩の印象を見る者に与える作品です。



(上段・左)《花(764-2)》油彩、キャンバス 1992年 41×51cm (中)《頭蓋骨(548-1)》油彩、キャンバス 1983年 55×50cm (右)《8人の女性見習看護師(作品番号130番の写真ヴァージョン)(130a)》白黒写真 1971年 各95×70.3cm (下段・左から)《2021年5月28日》《2021年6月10日》《2021年7月9日》《2021年8月17日》 グラフアイト、紙 2021年 21×29.7cm